



「安倍首相のイエスマンばかり」

と、ジャーナリスト **田原総一郎** さん記事を紹介

「不当な支配に服さない教育」意見書提案

松原のりかず趣旨弁明へ反対討論一言も出来ず

3月29日の本会議で、**松原のりかず**は「教育への不当な介入の存否を明らかにし、不当な支配に服さない教育を求める意見書」の趣旨弁明を行ないました。前文部科学事務次官の前川さん講演に関しての「教育への不当な介入」に係る報道が相次いでいます。岐阜市民からの憂慮の声を意見書提出。松原のりかず趣旨弁明に対し、一言も反対討論も出来ず、表決で反対したのは、自民、公明の会派と、和田、浅野、丸山議員。

松原のりかず 趣 旨 弁 明

本年3月23日の朝刊各紙は報じています、一部を紹介しますと。

文部科学省が前川喜平・前事務次官の授業の報告を名古屋市教育委員会に求めた問題で、同省に照会した自民党の池田佳隆衆議員が22日、ようやく公の場に姿をみせた。だが、短時間で一方的に持論を展開しただけで、詳しい理由を一切語らず野党だけでなく、自民の有力者や地元愛知の議員らもその対応を問題視している。

自民党愛知県議の一人は「問題発覚後の**雲隠れ**には批判の声が強い。今後も議員活動を続けていくには、有権者に向けてしっかり説明していく必要がある」と注文をつけた。河村たかし名古屋市長も、この日の池田氏対応を「**日本中が、池田氏からこうしろと、文科省が言われたのでは、と考**えている」疑惑がかけられており、答える義務がある。

愛知県の大村知事も「自民党の文科部会長代理という立場で文科省に問い合わせたら、どういう事態になるか、思いが至らなかったのか。教育基本法が禁じる「**不当な支配**」を招く原因をつくった、と思われても仕方がない」と批判。「**池田氏には事実を明らかにする義務がある**」と話した。自民党の石破元幹事長は派閥会合発言で「**あってはならない対応、慎むべきだ**」と問題視。伊吹元衆議院議長は「**自民党は傲慢だ、役人に対し何でも出来ると思われたのが支持率を大きく下げた原因だ**」と指摘。と報道しています。

田 原 総 一 郎 さん の 話

また、ジャーナリストの田原総一郎さんの話を掲載しています。田原さんの話は、こう言っています。池田氏や文科省がしたことは、まさに教育への不当な介入。言論の自由や基本的人権の尊重をどう考えているのか。それを理解しているとは思えず、(裏へ)

連絡先 市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖の橋町1-21 でんわ 253-2500

政治家として失格。今は池田氏のような、安倍首相のイエスマンばかり、その意味で森友学園と同根の問題だ。と掲載されています。

さて、提案されております意見書は、標題にありますとおり、まず、「教育への不当な介入の存否を明らかに」してほしいと求めています。これは、市民、国民の当然の要求と考えます。本文はこうです。

本年3月、文部科学省が、前川喜平前文部科学事務次官が名古屋市の公立中学校において「これからの日本を創るみなさんへのエール」と題して2月に行った講演について、その経緯、目的及び内容などを細かく尋ね、講演録や録音データの提供を求めるメールを名古屋市教育委員会に送ったとの報道がなされた。その後、当該メールが送られる前に複数の国会議員から文部科学省に対し講演に関する問い合わせがあったとの報道がなされた。教育行政については、教育基本法第16条において「教育は、不当な支配に服することなく」と定められている。

戦前の軍国主義教育の反省に立ち、戦後教育の枠組みでは、国の主な役割は教育条件を整えることなどに限られ、個別の教育内容に踏み込まないのが原則である。本来、教育に対する不当な介入を拒む役割を担うべき文部科学省の今回の行為は、「政治の介入に屈してしまった」との不信感を名古屋市にとどまらず全国の教育現場に広げるおそれがあり、「教育行政の中立公正」が大きく揺らいでいる。として、国に3点取り組むよう強く要望しています。

1 文部科学省の今回の行為に関して詳細な調査を行い、教育への不当な介入の存否を明らかにすること。 2 不当な介入の存在が明確になった場合は、是正に必要な措置をとること。 3 「不当な支配に服さない教育」を行うことを国民に明確にすること。の3点です。

戦後教育・民主主義教育の転換点にある、との危機感を持って、本意見書への賛成を議員各位にお願いし、趣旨弁明とさせていただきます。



松原のりかず
☎058-253-2500